

◆32番（森田卓司議員） 皆さんこんにちは。新風会の森田卓司でございます。

通告に従いまして個人質問に入らせていただきます。

1, 移住, 定住についてお伺いいたします。

本年度の機構改革で政策局内に移住・定住支援室が設置されました。そして、移住・定住支援を全庁で一体となり総合的かつ円滑に推進していくため、移住・定住希望者目線に立った具体的施策の検討を行い、それを実施することを主な目的として、室・課11名に対し、移住・定住支援室への兼務、併任もしくは委嘱を発令し、庁内の横断組織、移住・定住手伝い隊が立ち上げられました。

新聞等によると、2012年度に岡山県や県内市町村に寄せられた相談は前年度比12.4%増と2年連続で大幅な増加となっていると報道されています。また、同じく新聞報道ではありますが、県外から県内への移住者と伊原木岡山県知事の意見交換会が開催されたとのことでもあります。

そこでお尋ねいたします。

ア、今議会に本市への移住・定住準備のための仮住居「お試し住宅」として活用するため、北長瀬みずほ住座の修繕事業費が計上されていますが、当初予算で整備した3戸に対する応募件数及び地域別の状況をお示してください。

さて、御津・建部地域では高齢化、過疎化が他の地域より進み、空き家も増加しているのが現状でございます。先般、私ども新風会で3月末にスポーツアイランド構想の視察で奄美市にお伺いいたしました。視察の目的はスポーツアイランドで、天満屋さんなんかもよく合宿で利用されているとお聞きいたしました。市議会の議長さんが出てこられまして、いろいろな話をお伺いすることができました。その中で奄美市では定住促進住宅整備事業として地域において点在している空き家を市が借り受け、住宅として整備を行い、市に定住し地域活性化に貢献する意思を有する者に貸し出すことで、地域活性化と空き家の活用を図る事業を過疎の交付金を活用して行っているとのことございました。

そこでお尋ねいたします。

イ、平成27年度末が失効期限であった過疎地域自立促進特別措置法の有効期限が平成33年3月末日まで延長となっていると認識していますが、いかがでしょうか。

ウ、地域資源を活用した過疎地域の自立活性化の推進を図るために、過疎地域自立促進特別措置法の中に定住促進空き家活用事業があります。この事業を活用して空き家対策・定住促進を図ることを考えてはいかがでしょうか。

エ、御津・建部地域における移住・定住支援施策の方向性について御所見をお示してください。

2, 河川の水害対策について、河川整備についてお伺いいたします。

ここは非常に悩むところなんです、原稿では、ことしは今現在では、岡山市においては雨が少なく、渇水対策を考えなければならないと書いておりますが、今後の予想ではきょうから大雨になりそうな状況なので、そこは省いて、読んでしまいました、(笑声) 省

いてまいります。

今までは渇水の状態ではございましたが、市長を初め副市長、局長、関係職員の方々、消防団員の皆様方、地域の皆様方が参加され、去る6月2日には平成25年度岡山市水防訓練が南区福島で開催されました。議長、副議長、そして議員も行かれておりました。本当に大変お疲れさまでございました。

さて、昨年、一昨年と河川の増水で大きな被害を受けた御津矢原地域に緊急用排水ポンプ2台が常備配置となり、地域の方々も大変喜ばれております。しかしながら、旭川中流域、そしてその支流では河川の中洲が堤防、道路と同じ高さ、あるいはそれよりも高くなり、河川の増水時には川の流れを大きく阻害しているのが現状です。本格的な改修は築堤等による流下能力拡大であると考え、その事業の推進を要望いたしますが、多大な事業費と長時間を要することから、緊急的な対応として同地域の河川のしゅんせつを早急に実施するべきであると考えます。

そこでお尋ねいたします。

ア、市民の安全・安心を守るため県の事業であるふるさとの川リフレッシュ事業に今まで以上に積極的に協働し、県と協議するべきだと思っておりますが、いかがでしょうか。

イ、御津地域の旭川、宇甘川では昨年、一昨年と連続して甚大な被害を受けています。しゅんせつ土砂の処分場所の確保等、積極的に取り組み、県に対して早期のしゅんせつの要望をすることを望みますが、いかがでしょうか。

ウ、宇甘川では川の流れが大きく蛇行している地域があり、この十数年の間に何度も堤防を越流して耕作地に被害をもたらしている地域があります。このような場所は堤防のかさ上げをして、農業従事者の皆様方の耕作意欲を失うことがないように対処するべきだと思いますが、御所見をお聞かせください。

エ、市管理の河川でも同様な対策をとるべきだと思っておりますが、いかがでしょうか。

私自身も関係者の方々に早期の対策を今までも要望してまいりましたが、今後もしっかりと要望活動を行っていくことを申し添えておきます。

3、御津・建部コミュニティバスについてお伺いいたします。

高齢化が進む中で、全国的にいろいろな形態で交通弱者の足の確保策がされています。多くの市町村合併をした地域では、地域ごとに形態の違う運行体系により事業が行われているため、事業費のロスも生まれているところも多いようにお聞きしております。御津、建部のコミュニティバスも合併地域であり、それぞれの地域で合併時と同様の運行形態での事業が継続されておりました。昨年度より福渡駅から国立病院への幹線は定時運行とし、その他多くの路線がデマンド運行となりました。デマンド方式での運行、運行路線等では、当初は利用者の方々からの不安や不満もあったとお聞きしていますが、持続可能な交通弱者の方々への足の確保策としては、現行の方式をより利便性の高いものにするのを考えなければならない状況であると認識しております。

来年4月には町内会長さんを初め関係者の方々と協議の上、利用者増に向けての変更が

されるとお聞きしています。

そこでお尋ねいたします。

ア、昨年度から運行形態が変更になりましたが、昨年度の実績に対してどのような所見をお持ちかお聞かせください。また、幹線福渡一国立病院の利用実績についての御所見もお聞かせください。

イ、利用者の方々からの要望、御意見があった場合はどのように収集しているのかお示してください。

ウ、昨年度末にJRのダイヤ改正にあわせ運行時間等の若干の変更は行われています。今後もより利便性の高いコミュニティバスに改正する必要があると思いますが、今後の予定と課題をお聞かせください。

4、国土調査の進捗状況についてお伺いいたします。

平成21年6月市議会で国土調査の第5次十箇年計画は計画どおり実施できるのかとの個人質問を行いました。当時の経済局長の答弁は、平成21年末までの10年間で約24平方キロメートルの調査が完了し、おおむね計画どおり進んでいるとの答弁でございました。また、平成22年度以降も次期十箇年計画を策定して事業の推進を図っていくとのことでした。

そこでお尋ねいたします。

ア、国土調査事業の計画はどのように策定されるのでしょうか。

イ、第5次十箇年計画の最終年となる平成21年度当初予算は8,600万円余でしたが、平成25年度当初予算は5,030万円余となっております。この減額の主な要因をお聞かせください。

ウ、平成21年度の答弁では、旧岡山市内は足守・津高・上道地域、建部地域、御津地域を盛り込んだ計画を策定するとの答弁でしたが、その地域の事業の進捗状況をお示ください。

エ、岡山市の国土調査の進捗率をお示ください。

最後に、5、老人クラブの育成についてお伺いいたします。

中山間地域では65歳以上の人口が急増しており、こうした状況は地域活動団体の役員のなり手がいないなどにより活動が沈滞化し、集落の自治機能の維持が困難になる結果を招いている地域もございます。そのような中で、老人クラブは明るい長寿社会をつくるため、クラブ員の知識と経験を生かし、生きがいと健康づくり、社会参加活動などを行っている組織で、クラブ員の方々がいろいろな知恵を出し合い活動されています。それぞれのクラブで活動内容は違うとは思いますが、地域コミュニティーを維持していくためにも重要な組織であると思います。

そこでお尋ねいたします。

ア、平成24年11月補正予算で可決された高齢者地域支え合い体制づくり事業が平成25年2月市議会で減額補正がされています。その要因をお示ください。また、この事業を実施している老人クラブ数をお示ください。

イ、加入率の低下の原因はどのように分析されているのか、また老人クラブの活性化のために市補助金を5段階に細分化されたが、加入率の目標値等はお考えかどうかお示しく下さい。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎山崎康司都市整備局長 当初予算で整備した3戸分の応募件数及び地域別の状況についてお答えいたします。

北長瀬みずほ住座の当初予定3戸分につきましては、去る5月13日から24日までの間において、県外から本市へ移住や定住を希望される成人の方で、同居する親族がある世帯を対象に応募の受け付けを行ったところ、東京都から6世帯、神奈川県から4世帯など、関東地方にお住まいの12世帯から応募いただきました。そのため5月28日に本庁内において公開抽せんを行い、3世帯の入居予定者を決定し、順次入居の手続を進めているところでございます。

続きまして、2の河川の水害対策についての項、4点の御質問をいただいております。

県事業であるふるさとの川リフレッシュ事業に今まで以上に積極的に協働し、県と協議すべきだと思いがいかがか、御津地域の旭川、宇甘川についてしゅんせつ土砂の処分場所の確保等を行い、県に対して早期のしゅんせつを要望してはどうか、宇甘川の十数年間で何度も堤防を越流し、被害をもたらしている地域では堤防のかさ上げをして対処すべき、市管理の河川でも同様の対策をとるべきとの御質問に一括してお答えいたします。

ふるさとの川リフレッシュ事業は、県管理河川において土砂の堆積や樹木の繁茂により流れを著しく阻害している箇所について、県が平成22年度から緊急性のある箇所、比較的規模の大きい箇所、実施に当たり市町村等と協働の取り組みがある箇所について重点的に実施している事業でございます。これまで本市といたしましても、しゅんせつ土砂の搬入場所の確保、伐採樹木の配布場所の提供や広報連絡など、県と協力し事業を進めており、昨年度については4河川についてしゅんせつや樹木伐採等の事業を行っております。この事業は河川改修に先立ち、河川の流下能力の確保に即効性のある事業と認識しており、御津地域の旭川、宇甘川での事業実施も含め、今後も引き続きふるさとの川リフレッシュ事業の継続とともに、堤防かさ上げなどの対策について県に要望してまいりたいと考えております。

なお、市管理の河川では、浸水被害のあった箇所や改修等の要望のある箇所について現地を確認し、緊急性の高い箇所から順次護岸改修やしゅんせつなどの対応を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎山川修都市整備局都市・交通・公園担当局長 御津・建部コミュニティバスについて

の項、3つの御質問に順次お答えします。

まず、平成24年度の利用実績につきましては、平成23年度の利用実績との比較では、路線により利用者の増減があり、幹線の利用者については若干の利用者増となっています。御津・建部地区全体としては年間乗降客数が1,200名以上の増となっており、これは昨年度の運行時刻の変更などの見直しがバス利用者にとって利便性の向上をもたらしたことで、それから地域の皆様のバス利用に対する努力のたまものと考えております。

次に、利用者からの御意見、御要望についてですが、地域で組織されている御津・建部地区の生活交通を守り育てる会を通じてお伺いしておりますが、それ以外の声についても丁寧にお伺いしていきたいと考えております。

次に、今後の予定と課題についてでございます。

今後はさらなる利便性向上のため、利用者の御意見、御要望を踏まえ、地域代表の方と協働で運行等の改善案を固めて、年内をめどに道路運送法に基づき設置した地域公共交通会議に諮り、3月中には必要な法手続を終えたいと考えております。今後も自立的で持続可能な生活交通を維持していくためには、地域の皆様に対して引き続きバスの利用に対する高い意識の継続をお願いしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎高次秀明経済局長 国土調査の進捗状況についての項、4項目の御質問に一括して御答弁申し上げます。

国土調査は、国土調査促進特別措置法によりまして国が定める十箇年計画に基づいて市が計画的に実施するものでございます。計画策定に当たりましては、国土交通大臣が計画案を策定いたしまして、関係都道府県の意見を聞いて閣議決定されるものでございます。

岡山市といたしましては、現在の第6次計画のもと、足守、津高、上道、御津、建部地域で調査を実施することとしております。予算の減額につきましては、国土調査事業は国、県、市の事業費負担により実施されており、岡山県が平成20年11月に示しました岡山県財政構造改革プランにおきまして、国土調査事業に係る補助金額が減額されたことによるものでございます。

各地域の進捗状況につきましては、平成24年度末現在、足守地域で約5%、津高地域で約33%、上道地域で約31%、建部地域で約12%、御津地域で約30%であり、市全体での進捗率は約51%となっております。進捗率を他の政令指定都市と比較いたしますと、岡山市は第1位であり、2位の横浜市を12ポイント上回っております。本市といたしましても、今後とも地元の御理解と御協力のもと、調査事業の着実な実施に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎森真弘保健福祉局長 5、老人クラブの育成についての項、一括して答弁させていただきます。

だきます。

高齢者地域支え合い体制づくり事業につきましては、介護予防機器の購入費用の一部を補助するものであり、老人クラブ活動の活性化を図るとともに、会員以外の高齢者も含めた地域での介護予防を進めようとするものでございます。昨年度の本事業の減額補正は、申請のあったクラブ数が当初の見込みの約半数の 119 クラブであったことによるものでございます。

次に、老人クラブの加入率の低下についてですけれども、こちらについてはリーダーの高齢化や新規加入が進まないことなどが主な原因と考えております。加入率の目標値は設定しておりませんが、高齢者の積極的な社会参加に向け、できるだけ多くの高齢者が老人クラブ活動に参加されるよう、クラブ活動の活性化や活動内容のPRなどの加入促進に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔32 番森田卓司議員登壇〕

32 番（森田卓司議員） 御答弁ありがとうございます。

o n i ビジョンをごらんの皆さん、私は後ろから映っていると思いますが、しっかり見ていただくためには、二、三日かかると思いますが、インターネットに録画で配信されるのを見ていただければ、ちゃんと前から見ていただけたらと思いますので、どうか見ていただければと思います。

さて、移住、定住についてでございます。

移住、定住とそれからバスの問題は一緒になるのかなと思っているわけですが、やっぱり僕らも、森田君、空き家はいっぱいあるじゃないかと、何とか活用すりゃええじゃねえかということはずっと言われ続けております。しかしながら、私も空き家を 1 軒持っておる人間なんですけど、その中にやはり自分が生活していたものを置いていたりして、今は空き家になっているというような状態のところが多いので、なかなかほんなら貸してくれえというて、はいどうぞというわけにいかんのも現状であると思っております。

こういう状況の中で、竹枝小学校区がありますが、この竹枝小学校区を初め建部地域では、東日本大震災以前からこういう取り組みをしてこられておりました。起こってはならない災害であったわけですが、東日本大震災が起きてしまい、そして竹枝地区へいろんなことで来られた方が大勢いらっしゃいますし、建部地域、御津地域でもおられると思います。竹枝地域だけじゃないんですけど、まずはとりあえず竹枝地域に対してどういう御所見というか、どういうお考えをお持ちかお尋ねしたいと思います。

学区を挙げて本当に取り組んでおります。教育長、私は今市民文教委員会に所属しておりますので、教育長に答弁を求めることができないのでしませんが、そういう部分もやっぱり学校の児童がふえるということにも十分貢献されているのではないかと考えております。

それから、河川についてでございます。

けさ私、旭川ダムに行っていました。旭川ダム、ちょうど水門ゲートの一番下ぐらいですね、これが8割ぐらいになるんかどうかわかりませんが、そのくらいの貯水率だとお聞きしております。まだまだ降っても大丈夫なんかなというような状況ではあると認識して帰ったところでございますけれど、最近はやりのゲリラ豪雨とかで、湯原ダムと連動しているみたいなのですが、そういうことがあったときにやはり災害に遭うのはダムの下流地域になりますので、ぜひともそのところはさっき局長に答弁いただいたように、県と協働で、また市民の方も含めてやらなければいけないことだと思います。

ずっと私、旭川沿川を通ってこちらに来るわけでございます。都市ビジョンで掲げる水と緑が魅せる心豊かな庭園都市でございますが、河川の中まで緑は要らんのかなと思っておりますので、その木は伐採してもええんのかなと思っております。これは要望で、しっかり河川整備にも取り組んでいただきたいと思っております。

コミュニティバスですね。コミュニティバスにつきましては、いい方向で進んでいるような御答弁であったと思っておりますが、幹線路線がことしの3月の見直しで免許試験場まで全てのバスが上がるようになりました。利用者をふやすためには、やはりこれ久米南町の方々、それから美咲町の方々もJRで福渡まで来て、福渡からバスに乗って免許センターとかも行けるわけでございます。多分このon i ビジョンの放送は久米南町でも見られていると思うんです、この岡山市議会の様子を。そうじゃないかと思っておりますので、そのあたりの宣伝をして、やっぱりもっともっと幹線に対しては利用者をふやしたらどうかと思っております。これは答弁は要りません。

それから、今度は幹線じゃなくてデマンドのほうですね、デマンドのほうはやっぱり過疎地域を走らせているわけですから、だんだんと乗る人がふえるというのはなかなか難しいんじゃないかと思うんです。人が減っていきょうところに乗る人をふやすというのなかなか難しいことではあると思っておりますけれど、やっぱり一番利便性が高いという、私も言いましたし、局長も言われましたけれど、それをするためには今乗っている人に直接アンケート用紙、余り複雑なものを出すと書いてくれないと思っておりますので、例えば停留所が今のままでええとか、どういうふうな経路がええとかというようなことで、利用者の方にアンケート用紙を出したらどうかと思うんですが、それはお答えをください。

やっぱり若い人にも使ってもらう、若い人というか、小学生とか中学生がスクールバスのかわりに使うことも考えていかななくてはならないと思っております。それはまたの議論になりますが、そういうことも考えながら、さっきの移住・定住促進を含めて移住して来られる方も、そういうバスがあるよと、不便なところじゃないよと思えるようなバスにしておかなければ利用者はふえないんじゃないかと思っておりますので、いろいろと生活交通を守り育てる会とか、町内会長さんとか、そういう方と相談してやっていっていただきたいと思っております。

私も乗らせていただくんですけど、やっぱりドライバーの方はよく知っておられます

ね。非常にドライバーの方もいい、いい方と言ったらおかしいですけど、余り運転手さんとお客さんが話するのは交通事故とかそういう部分ではよくないのかもわかりませんが、ドライバーの方と利用者の方はいろんなお話をされております。ドライバーの方にお話を聞きますと、ここはこういうふうにしたほうがええでというお話をよく聞かせていただきます。だから、そういう事業者の方、またドライバーの方ともお話しする機会をとられたらいいんじゃないかと思いますが、これも要望にしておきますので、よろしく願いいたします。

それから、国土調査でございます。

それぞれ5%、33%、31%、12%、30%ということでした。本当はここでいつまでに終わるんですかという質問をしようと思ったんですけど、どう考えてもこの議場にいる人が生きている間に済むことはあり得んなど、僕らの子どもの代でも済まんなどというような認識を持ちましたので、それはもう本当何年かかるかわからんけど、着実にやっていってくださいというようなことしか言えんのかなと思いますので、要望で着実にやっていていただきたいと思います。

その中で、よく政令市で2番目とか3番目とか聞くんですけど、政令市で1番ということなので、これは政令市で1番のことは何があるんならというたら、国土調査が一番できておるといえることは言ってもええんじゃないかと思いますが。

それから最後に、老人クラブの育成についてでございますが、老人クラブ連合会に入っている数だと思うんですけど、連合会に入ってなくて地域で老人クラブをつくってその中で市の補助金ももらわずに自分らの財源というか、自分らのお金を出してそういう活動をされている地域もございます。それはそれで立派なことだと思って私らも呼んでいただいたときにすごいと思うわけでございますが、なぜ市の老人クラブの連合会に加入せんのかというようなことを、少しは聞いてみてもええんじゃないかなと。市やそういう補助金は要らんのかなという方もようけいらっしゃいますから、それは自分で活動されることは、本当にすばらしいことだと私も思いますけれど、やっぱり多少の補助金でももらって少しでも有意義な活動ができるようにしていくことが、私は岡山市全体の一体感を出すためには必要なのではないかと思います。

そして最後の最後に、市長、初日に御勇退の発表をされまして、本当に2期8年間お疲れさまでございました。私自身6年間ございました。最初にこの議会に来させていただいたときに、市長に合併地域のことをどのようにするんかというようなお尋ねをしたことがあると思うんですけど、市長のほうから約束は絶対守るから安心してとってくれというような御答弁をいただきました。それで、今ふと振り返ってみますと、やっぱり御津でも建部でも、瀬戸とか灘崎、わからない地域のことを余り言うと怒られますので、御津と建部に限定しますけれど、新市建設計画、それから基本計画、ほとんどの大きな事業が、終了しているわけではございませんが、もう事業が進捗するような状況をつくっていただきました。それは担当局の方にも本当にいろんな御努力をしていただいたものと感謝してい

るところでございますが、これは市長が一番最初に約束していただいた、約束したことは絶対やるから安心してとってくれというような言葉が引き継がれてきたものではないかと思っ
て感謝するところでございます。ありがとうございました。

これからちゃんと全部できるまで見きわめなければいけないわけですけど、行政の継続性ということもあり、できるものと確信しておりますし、ぜひ次の市長にも引き継いで
いただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

じゃあ、これで質問を終わります。

ありがとうございました。

◎櫻井理寛政策局長 震災以後、御津・建部地域、その中でも竹枝地区に移住、定住が
ふえていることについて所見をという御質問でございます。

議員御指摘の動きにつきましては、私どもも聞き及んでおります。先日、建部支所にお
きまして、竹枝地区へ移住、定住された方々からお話を伺ったところでございますが、そ
れによりますと町内会長を初めとして地域の皆様方に本当に温かく迎えていただいたこと
も移住、定住がうまくいった要因ではないかというような声が聞かれました。今後も本市
へ移住、定住された方々はもとより、受け入れ側の地域の方々にも適時ヒアリングさせて
いただきながら、さらなる移住・定住支援施策の充実に努めてまいりたいと考えておりま
す。

以上でございます。

◎森真弘保健福祉局長 老人クラブ連合会に加入していない老人クラブは現在市内に2
つほどございます。連合会に入るとやはり他クラブとの交流ですとか情報交換とかもでき
ますし、そういったメリットや連合会の活動をこうしたところにもお伝えすることによっ
てコミュニケーションをとるようなことを努力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎山川修都市整備局都市・交通・公園担当局長 御津・建部コミュニティバスのデマン
ド運行のところで、実際に乗っている利用者の方にアンケートを配る形で声を聞いたらい
かがかとの御質問にお答えいたします。

運行の内容ですとか、その他いろんなサービスの改善には利用者の声を丁寧に聞くとい
うことが重要だと考えております。そのためこれまでも職員が直接利用者に聞いたりです
とか、バスの運転手からヒアリングしたこともございますけれども、議員御提案のアンケ
ート用紙を配るという方法も有効な手段だと思っておりますので、今後そのアンケート、
どのような内容でどういう方法でやるかということも含めて検討してまいりたいと考えて
おります。

以上でございます。